ワークショップ②
「地域包括ケアシステムにおける多職種の協働と連携」

アドバイザー　　國光登志子（日本地域福祉研究所）

神山裕美（大正大学）

地域担当者

阿部　省吾　（飯能市基幹型地域包括支援センター）

神立浩美　（飯能市基幹型地域包括支援センター）

亀崎祐也　（飯能市社会福祉協議会）

日本地域福祉研究所作成　複写禁

参加者状況

1. ワークショップ会場
　原市場福祉センター

2. 参加者
　男性20名　女性26名　計46名
　飯能市内：17名（住民9名・専門職8名）
　飯能市外：29名
　（住民10名・専門職10名・教員2名・学生7名）

都市緑いきいき広場

第２２回地域福祉実践研究セミナー in 埼玉・飯能
ワークショップ② 地域包括ケアシステムにおける多職種の協働と連携
原市場へようこそ
5

飯能市の地域包括支援センターと原市場圏域との地域概要

- 地域包括支援センター
  （市内中心部に五カ所）

- 人口：7，583人
- 高齢者数：2，261人（高齢化率29．8％）
- 中山間地域の中では人口は比較的多く、高齢化率は市中心部と比較するとやや高いが、中山間地域の中では低い）

目　　的

1．飯能市の地域包括ケアシステムの取り組みより、現状と課題を考える

2．原市場地区の地域づくりを学ぶ

3．地域包括ケアシステムにおける住民と行政の協働を考える

日本地域福祉研究所作成
複写禁

展　開　方　法（午前）

実践報告①

「医療と介護、地域との連携～10年後の飯能を見据えて～」30分

神立浩美氏（飯能市基幹型地域包括支援センター　保健師）

実践報告②

「消滅可能性都市を吹き飛ばす、新たな地域づくり･まちづくり」30分

大野康氏（飯能市原市場地区社協副会長　歯科医師）

ワークショップ①「飯能市の地域包括ケアの現状と課題について」

＊7～8名ずつの6グループに分かれてグループ内で討論し発表

第２２回地域福祉実践研究セミナー in 埼玉・飯能
クショップ②　地域包括ケアシステムにおける多職種の協働と連携
医療と介護、地域との連携
～10年後の飯能を
見据えて～
5

第２２回地域福祉実践研究セミナー in 埼玉・飯能
ワークショップ②　地域包括ケアシステムにおける多職種の協働と連携
神山　裕美
大野　康氏
55

展　開　方　法（午後）

実践報告③
「住民主体の地域包括ケアと社協の支援」
牧野郁子氏（鶴ヶ島市社会福祉協議会）

基調報告
「飯能市が目指す地域包括ケア体制の実現に向けて」
町田守弘氏（飯能市健康福祉部地域・生活福祉課長）

ワークショップ②「住民と行政の協働～地域の中で私たちは何をしていけば良いのか？～」
　グループ検討後、ポスターセッションによる報告と議論

5

4

ワークショップ①
2

1
4

3
原市場地区社会福祉協議会
副会長
大野 康氏

第２２回地域福祉実践研究セミナー in 埼玉・飯能
住民主体の地域の
包括ケアの現状と
社協の役割
6
3

住民主体の地域の
包括ケアの現状と
社協の役割
3
6

結果　ワークショップ①
（飯能市地域包括ケアの現状と課題）

＊良い点＊

・市全体の医療と介護、地域の連携充実

原市場地区

1. 地区社協活動活発
2. 地域キーパーソンの存在
3. 住民の力と多職種連携のつながり
4. 対等のパートナーシップ
5. 全世代・全対象型地域包括ケア萌芽

＊課題＊

1. 地域包括ケアセンターが市内中心部に固まっていて、原市場圏域にない

2. 市の地域包括ケアの種まきはできたが成果はこれから

3. 地域包括ケアを住民と協働で創り上げることもこれから

結果　ワークショップ②
（住民と行政の協働～私たちは何をすべきか）

互いに知る	自発性・主体性	問題発見の仕組み
包括ケアの人材養成	地域の人材発見	社会資源創り
困っている人中心に	パートナーシップ	地域づくりまちづくり

第２２回地域福祉実践研究セミナー in 埼玉・飯能
ワークショップ②　地域包括ケアシステムにおける多職種の協働と連携

生活学習

5

考　察

1. 地域包括ケアシステムの捉え方の多様性

2. 多職種連携と協働は専門職だけではない

3. 行政が変わる、住民が変える、取り組み途上

4. 住民主体の地域包括ケアシステムはまちづくり・地域づくりにつながる

結論・今後の展望

我が町の地域包括ケアシステム

形成

連携・協働への住民と専門職の互いの尊重、言葉の共有

（聴く、尋ねる、枠組みの差を理解）

地域保健福祉計画等に基づく地域包括ケアシステムの計画・実施・評価の循環（公私関係者の顔の見える関係）

地域人材を生かし社会資源を創り出す地域包括ケアは、地域再生にもつながる